

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Infant dietary intake of yogurt and cheese and gastroenteritis at 1 year of age: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 1歳の幼児におけるヨーグルトおよびチーズの摂取と胃腸炎との関連について

ユニットセンター(UC)等名: 富山UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLoS ONE

年: 2019 月: 10 巻: 頁:

筆頭著者名: 中村万理

所属UC名: 富山UC

目的:

これまでの報告によるとヨーグルトは胃腸炎の発症を予防するとされてきたが、一致した見解は得られていない。そこで本研究では、1歳の幼児における発酵食品摂取(ヨーグルトとチーズ)と、それまでに医師によって診断された胃腸炎の有無との関連を調査した。

方法:

登録されている103,062の妊娠のうち、2回以上の登録、流産、死産、多胎妊娠等を除外し、82,485名を解析の対象とした。1歳時の食事摂取頻度調査票により、ヨーグルト・チーズの摂取量を曝露とし、1歳時に母親が回答した、医師による幼児の過去1年の胃腸炎の診断の有無との関連を検討した。

結果:

ロジスティック回帰分析の結果、ヨーグルトを週1回未満摂取する幼児と比べて、週に7回以上摂取する幼児および週に3~6回摂取する乳幼児では胃腸炎のリスクの低下がみられた。この結果は様々な共変量で補正した後(n=65,051)でも関連が認められた。なお、チーズの摂取においては、特に関連は認められなかった。

考察:(研究の限界を含める)

研究の限界としては、食事摂取頻度調査票を使用しているため、個人の間で質問への理解の違いが影響していた可能性は否定できない。また、この食事摂取頻度調査票はすべての発酵食品を網羅しているわけではない。さらに、ヨーグルトやチーズのブランドまでは質問していないため、菌株等の違いについて把握できていない。最後に横断研究であるため、因果関係もはっきりしない。すなわち、ヨーグルトを摂っているから胃腸炎がおこらないのか、あるいは胃腸炎がおこりがちなためヨーグルトを摂っているのかはわからない。最終的にはこれを解決するためには介入研究等が必要である。

結論:

本研究の結果より、ヨーグルトを多く摂取する幼児で胃腸炎リスクの低下が認められた。